

第16回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	最優秀賞
作品	ひとしきり語った後に雪すくう
作者	田中 亜紀子
住所	三重県
講評	さて、いつ、どこで、誰が、誰に、何を語ったのだろう。雪が降り、積もる、懸命に語ったあと、ひと掬いの雪で雪玉をつくった。告白か、言い訳か、それとも離れ離れになる最後の言葉か……。シチュエーションはよく見えるのだが、「語った」言葉への想像は読み手それぞれの思いを駆り立てる。一読一瞬にして読み手が「ひとしきり語った」人物になってしまうようだ。

賞	優秀賞
作品	旧姓を呼ばれときめく垂り雪
作者	とりびあの
住所	東京都
講評	嫁いでもう何年になるだろう。そんなある日懐かしい人に突然うしろから旧姓で声を掛けられた。あの頃のように胸が高鳴る。その時傍らに立つ重く雪をかぶった木が、勢いよく枝を振り上げて雪をはらい落とした。「旧姓」の声も「垂り雪」もその一瞬に永遠性を持っている所以であろう。
作品	雪をかく恋が埋もれぬようにかく
作者	完熟きのこ
住所	愛知県
講評	雪掻きは雪国にとって大切な労働である。今日もまたいつものように始めるのだが、近頃の彼(彼女)との間に小さな不安が生まれている。黙々とつづく作業はやがて大切な恋をより一層育む事への期待と懸命さへ変わってゆく。この雪を掻いている人、私にはなぜか若い女性に思えてならないのですが……。

第16回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	佳作
作品	春の雪払ひてへヤーピン落とす
作者	箱島 八郎
住所	福岡県
講評	「あっ！」という一瞬が鮮明な映像になっている。しかも「へヤーピン」という具体的な「物」によって人間の匂いが感じられて心地よい。「春」の雪でなければ成り立たない一句である。
作品	手を引いて君を連れ去る雪合戦
作者	ペースかめ
住所	大阪府
講評	映画やテレビドラマにありそうな劇的ワンシーンである。大勢で投げ合い、隠れ、また投げる。そのどさくさに紛れ大きな恋が走り出す。
作品	あなたしか見えずマンモススキー場
作者	中年やまめ
住所	神奈川県
講評	誰でも頷くようなしっかりと「もの」を捉えた一句です。大きなゲレンデという空間の中にあなたというひとつの点が鮮やかに見えてきます。何より無駄が一切ありません。

第16回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	入選
作品	合い鍵をポストに返す雪の朝
作者	ピコタン
住所	広島県
講評	んー、あるある！！思ってしまう一句です。帰路何度も振り返ったか、それとも一気に走り出したのか……。
作品	初めての相合い傘に雪つもる
作者	とどちゃん
住所	群馬県
講評	似たような句が、毎回沢山寄せられます。そんな中、この句はどれよりも的確に無駄無く詠まれています。思いを語らなかつた好例の句です。
作品	愛犬の雪の足跡すら愛し
作者	アマガエル7号
住所	福岡県
講評	はたしてこの犬、自分の愛犬かそれとも大好きなあの人が可愛がっている犬か……。
作品	ケンカして君を待つ夜の雪静か
作者	菊地 早苗
住所	東京都
講評	戻って来るに違いはないのだけれど、雪はしんと降っているし……。戻ったらこっちから謝ろう……。静かだなあ……。
作品	雪とけて秘密の恋が走り出す
作者	細田 栞
住所	東京都
講評	恋は秘するほど熱いものかもしれませんが。しかし雪が溶けて辺りが生き生きし始めると恋もまた加速を加えます。

選者: 大類つとむ氏 (山形県現代俳句協会会長、俳誌「陸」「街」同人)

応募作品数 : 3,956作品